踏まえ、幅広く情報収集を行い、策定することとしている。

町長の来年の統一地方選挙について

議員　1　3期目の公約に対する達成度について

2　来年度予定の町長選を控え、町民は、今後の町政運営に大きな関心を寄せている。町長は、次期選挙への立候補について、現在どのように考えているのか。また、これまでの町政運営を踏まえて、最も重点的に取り組まなければならない課題は何か。

町長　1　3期目の公約として「未来を見据え、〝新たな決意と更なる前進〟」をスローガンに、「安心安全に暮らせる町、絆とふれあい、元気な町づくり」を目指してきた。その実現のために、「創造力と行動力、実現力」を基本姿勢とし、大きく3つの戦略と15の具体的な取り組みを掲げた。

大別すると、先ず中心に置いたのが、2度の水害を教訓とし、「町民の安心安全な暮らしを守る」こと。二つ目が、町の基幹産業である農商工振興を通した「町の活性化と産業振興を更に進める」こと。そして、三つ目が、新たな魅力の創出と大町ブランドづくりを目指し、「オンリーワンの魅力ある町づくりに挑む」こと。この3つの戦略に沿って、15の項目を掲げ、現在まで完了したものを含めて12項目に取り組んできたところで、公約した項目の進捗状況は、80％程度になろうかと考えている。

引き続き、更なる公約実現に向けて、全力を尽くしていく。

2　改めて、振り返ってみると、町政運営の基盤となる「財源確保」から始め、町民要望が高かった「スーパーの誘致」や「巡回バスの運行」などを中心に、「買い物や交通環境の改善」に取り組んできた。

また、多くの町民の皆様が待ち望んでおられた「花火大会の再開」、手厚い「子育て応援」、「福祉の充実」など、子供から大人まで、「笑顔があふれる元気な町づくり」に加え、2度の災害を経験し、排水ポンプ等の施設の増強をはじめ、「地域の絆づくり事業」による助け合い「共助」の醸成や、「防災無線の全戸配備」など、町民の命と暮らしを守る「安心安全な町づくり」のために注力してきた。

更に、コロナ対策や、物価高騰対策など、予期せぬ事象にも、「町民の為に何をやるべきか」日々、思いを巡らし、仕事をさせて頂いた。

ただ、大町町には、まだやらなければならないことや、難題・課題があり、これまで時間をかけてきた重要な交渉事もある。大町のために、親身になって、力を貸していただく方々の協力や熱意も強く感じており、将に、蒔いた種が花咲こうとする重要な局面でもある。

一方で、4期目への挑戦は、「気力・体力、志」、自らをじっくりと見つめ直す一つの節目でもある。そのことを十分に踏まえたうえで、今回、このタイミングで、町民の皆様や道半ばの事業にご協力頂いている方々に、「私の気持ち」をお示ししたいと思っており、次期4期目への挑戦を、「次の世代に引き継ぐための極めて責任ある4年間」として、その責任を果たすために、「初心に戻り、これまで12年間、培ってきた経験を、大町町の為に、もう一度生かしたい。」その思いから、立候補をさせて頂きたいと考えている。

町政課題については、多岐にわたっており、やるべきことは、行政の現場で45年間、課題と向き合い、取り組んできた経験を通して私自身十分に認識している。

まずは、町民の皆様に、「よりよい未来が大町にはあるんだ」という希望を持ってもらうこと、そして、〝大町で暮らそう。暮らしてみよう〟そう思ってもらえるよう「将来にわたって希望ある持続可能な町づくり」を、目指していきたいと思っている。

人口減少・高齢化社会における生活交通と買い物等支援について

早田　康成

議員　先の議会報告会において町民から質問があった。内容は、「今まであったスーパーが最近閉店となった。当該スーパーを利用していた方々で特に交通手段のない高齢者の買い物に大きな影響がある。」とのことである。本町のみならず地方で進む過疎化少子高齢化の現状はどんどん悪化していくと考えられる。将来を見据えた行政を含めた地域の活動、生きていくための方策等について考えて行かなければならない。住み慣れた地域で生活を続けられる仕組みを自治体として、どう構築するかを質問するものである。

1　移動困難者の実態把握について。町は現在、町内において、自家用車を運転できない高齢者、免許を返納された方、身体的理由からバス停まで行くことが困難な方がどの程度いると把握しているのか。また、通院や買い物のための移動に困っている住民の実態について、行政として具体的な調査は行っているのか。

2　現在の巡回バスの役割と課題について。現在運行している巡回バスについて、利用者数や利用状況をどのように分析しているのか。また、バス停まで行くことができない方を、現在の交通施策の中でどのように位置付けているのか。

3　予約型・デマンド型交通の導入について。自宅から